

令和3年度第3回 伊那市総合教育会議会議録

- ◎招集年月日 令和3年12月21日（火）
◎開催日時 令和3年12月24日（金） 午後3時30分～午後5時
◎場 所 伊那市役所 庁議室
◎出席者 白鳥市長、笠原教育長、教育長職務代理者、田畑委員、原田委員、黒河内委員
◎欠席者 なし
◎出席職員 馬場教育次長、宮下学校教育課長、北林生涯学習課長、早川市誌編さん室長、小松指導主事、福與指導主事、伊藤教育総務係長、春日市誌編さん委員会委員長

1 開 会

教育次長

皆さんこんにちは、ご案内の時間になりましたので令和3年度第3回目の伊那市総合教育会議を開会いたします。初めに市長からご挨拶をお願いいたします。

2 市長あいさつ

いよいよ年の瀬、来週2日くると年末年始の休みということで、本当に1年経つのが早いと感じています。この1年は昨年から続いているコロナで大変な経済状況になったり、教育現場でも大変な混乱があったりしました。日本中同じような状況下で、教育を進めていかなければいけないということで、教育委員会の皆さんには大変な努力をいただいたことに感謝申し上げます。伊那市はICT教育を当初から始めておりましたので、休校になったときにも、タブレット端末によって自宅で授業できるということができましたし、先生方も本当に努力していただいて、そうした環境の中でも授業を進めることをやっていただきました。

またコロナの中では、貧困が非常に顕在化してきた、また突然貧困の家庭が生まれることもありました。そうしたことを子どもも見逃さないように思っておりますけれども、なかなかそうした発信がない場合は、捕まえにくいことも正直ありました。企業からの寄付金や、市民の皆さんからの食べ物の提供、一般食堂の皆さんも子ども食堂を開いていただき、本当に情けを感じた1年であったと思います。

こうしたことが早く収まることを祈るわけですが貧困は避けて通れないと思いますので、来年以降、困っている家庭、また子どもたち、そうした皆さんに平等に光を届けるということをぜひお願いをしたいと思います。子ども外国人も含めて、子どもたちには全く原因があるわけではなく、たまたまそういう状況下に置かれているだけで、社会全体、私達全体で等しく温かい手を差し伸べていくということが基本だと思いますので、そうした点についても教育委員会の皆さんと連携しながら、進めていただくことをお願い申し上げて、あいさついたします。

3 教育長あいさつ

市長にはこの会にお越しいただきありがとうございます。この総合教育会議は、教育委員会の取り組み、また子どもたちを真ん中において教育に関わる課題成果等について意見交換をさせていただける大変貴重な場になっています。具体に関わる形での意見交換をすることができる大変貴重な場と感じています。市長のお話の中にもありましたが、コロナ禍で新しい形を作ってきた取り組み、また市長の12月議会で弱者に届く光を使われました。今のお話の中では、見逃さないとか、光を届ける、そうしたお話をされましたが、現在広がってきている状況についても、その柱において意見交換できれば、本当に貴重な機会だと思います。

4 協議事項

(1) 第4回伊那市中学校キャリアフェスの振返りについて

市長

第4回キャリアフェスですが、伊那中、春富中を含めると6回目ということで今までやってまいりました。昨年は急遽 Web 上での開催ということで、担当した皆さんは、大わらわの中で対応いただきました。今年もどうなるかわからない中で、最初からもう現地でやりましょうということで準備しました。

私も出させてもらって子どもたちに接したり、またこちらから話を投げかけたり、非常に活気のあるキャリアフェスでした。最初から考えると、最初の経験者今21歳ぐらいになりますので、あと数年すると大学に行っていれば卒業するだろうし、また就職している子どもたちがキャリアフェスを通じて、どういう思いで働いているのか、そうしたこともだんだん検証していければなと思っています。今年のキャリアフェスについての振り返りということで、最初のテーマにいたします。事務局から説明をお願いします。

学校教育課長

第4回伊那市中学生キャリアフェスの振返りについて資料により説明

市長

今年は学校からの意見が多い。今までそれほど無かったと思いますがどうしてですか。

学校教育課長

連携不足が一つ大きかったかなと感じています。いろいろ新しい企画も考えたものですから、これについてしっかり調整ができてなかったところがあったと感じております。

市長

こういったことを修正しないと、来年も同じことになってしまいます。学校でも忙しいのは分かりますが、これも一つの教育だと思います。意見はわからないわけではありませんが、どうやったら子どもたちのためになるか考えてもらいたいと思います。ちょっと心配なところですが、他に意見ありますか。

教育委員

学校側に拒否反応のような意見が出ています。そこが非常にポイントで、連携不足という言葉ですが、実際どのようなことがあって、どういう認識の差があるのかが、成功させるヒントがあると思います。もう少しどんな様子かお聞かせください。

学校教育課長

一つはしっかりした理念の共有を基本に持っていかないと進んでいかないと感じています。そのために大人実行委員会を開催していますが、そこで連携をとることができませんでした。

市長

具体的にはどうですか。

学校教育課長

子ども12人による実行委員があり、学校との連絡はその子たちだけを通じ行っていますが、そこがうまく繋がらなかったことで、しっかり連絡が欲しいといったご意見がありました。

市長

窓口になる先生がいると思いますが、そこはうまく機能しなかったのですか。

学校教育課長

窓口の先生は実行委員になっていますが、情報をしっかり伝えられなかったことがありました。

市長

去年、その前はそういう意見がありませんでした。それなりにうまくいっていたのかどうか、そのところを明確にしないと来年やるにしても同じことの繰り返しになります。そこはよく反省というか、学校側とも議論した方がいいと思います。

教育委員

実行委員の会議へ出席したことがありますが、その時に先生が気にかけておられた子どもたちのカルテ、強みのカルテのようなパスポートですか、それぞれの子どもが強みを生かせるように、それを充実させてあげたいという気持ちがありました。会議の時に、そういった先生たちが気になっていることをもっと引き上げたらいいと思います。今回は、そこまでの時間が取れなかったように思います。

市長

他にどうでしょうか。

教育長職務代理者

2つありますが1つは生徒実行委員の声を聴きたいということ。もう1つは生徒の感想はまとめてありますが、数はもっと多いと思います。例えば楽しいと言える姿がかっこよかったとか、クロージングにもそういう声があり、もっと違う内容があると思います。そこを踏まえて、全体としての傾向はどうか、その中で課題はどうか、という整理ができると良いと思います。この整理では負のものが非常に大きく見えてしまいます。

市長

毎年もっと多くの意見があったのか、少なくまとめたのか、どちらですか。

学校教育課長

担当としては、問題や改善点を大切にしたいと言ことで、このような形にまとめました。

市長

私たちが感想を読んでどう感じるかであって、事務局の方で代表的なものだけまとめて、省いて載せているのであれば子どもたちの感想はこうだ、先生たちの声が強いと見えてしまいます。その辺はどうですか。

教育次長

全部確認したわけではありませんので推測になりますが、同じようなものをまとめたのは間違いがあると思います。数的に言えば当然生徒の数も多いので、もっとたくさんの感想があり、生徒のところには否定的な意見は、無かったと思います。

先生方との関係については、去年は本当にバタバタの中で、学校の中で取り組んでいただきました。今回はある程度前から仕組んで学校の中で取り組んでいただきました。一去年は会場で行ったので、担当して同行された先生方はしっかり感想を持ったと思いますが、他の先生方はあまりキャリアフェス自体に関わりが少なかったところが、今年いろんな先生方が関わったこともあり、いろいろな感想が出てきていると推測しています。

市長

推測は実際ではない。聞きたいのは実態で、そうしないと次ができません。

教育次長

ただ実態として、先生方からこういう意見があるのは、間違いありません。

市長

学校別でわかるはずで、先生に聞いて具体的にどうですか、どうすれば良いかと話を聞かないと、このままでは反対の意見が多いということで、キャリアフェスのあり方がどうなのかとなってしまいます。

教育次長

感想の分析についてしっかり行えるように考えます。今日の資料はそういったことが出来ていなかったもので、来年に向けてやっていかなければいけないと思います。

市長

どういうところが先生たちの負担になっているのか、それを議論して来年に向かっていかないと進化していかない。今の話だと実行委員の生徒たちが上手に伝えられず、先生たちとうまくいかなかったとなってしまいます。

教育次長

伝え方について工夫する必要があると思います。初めにキャリアフェスをどういう目的でやるのか、しっかりした説明も不足していたと思います。

市長

校長会で伝えているのではないですか。

教育次長

校長会もありますし、実行委員会には各学校から先生方も出ているので、伝わっていくと思っていましたがそうではなかったということです。

市長

教育委員会においては、はじめに子どもありきもありきとして、子どもたちを中心した教育環境を考えたときに、現場の先生は負担に感じているというような意見があると、進まなくなってしまう。負担があるならどうしたら解消できるかというところが反省から次に行く大事なところ、そこをきちんと議論していくべきだと思います。

教育長

学校から上がっている声の裏にある実際の姿を見返しながら、その前に担当された先生方から声を聞く機会を設けて整理してみることが大事で、どういう形で価値のある取り組みを持続させていくのかという方向で課題を整理して、対応を考えたい。

市長

他にはどうですか。

教育長職務代理者

活動が終わったところで、もう一度実行委員会をしっかりとって、皆さんの声を聞いて、検討して、次年度へ生かすことが大事です。クロージングの時に話していた子どもたちの良い言葉が消えてしまっていることが一つと、今年5個のブースを子どもたちが開いた、それに対して非常に満足感を実行委員の子どもたちは持っていた、このことについての評価があまり出ていなくて来年度はどうするのかということもある。評価をしっかりして、次年度へ生かしていくよう、お願いします。

市長

非常に大事なことだと思います。学校によって意識の違いがみられます。差があるのだったら説明して理解してもらわないと来年も同じ失敗となります。現場の先生たちから実際にヒアリングしてみるなど、丁寧に対応する必要があります。

市長

他にどうでしょう。これについてはもう1回進め方、反省について対応して進めてください。

(2) 市誌編さん作業の状況について

市長

次に市誌編さんについて、説明をお願いします。

市誌編さん室長

市誌編さん作業の状況について資料により説明。

春日委員長

市誌編さん委員長を仰せつかり、会議も続いておりますが頑張っております。委員長の打診があったとき、これは面白いと思いました。5年前に半世紀ぶりで故郷に帰ってきて、これから何をしようかと言ったときに、これは素晴らしいことが始まるなど思ってお引き受けいたしました。

今まで6回の編さん委員会を重ねており、やり始めてみると各分野で縦横立体的に見た場合に、非常にいろいろな見方があり、各編さん委員会のその場その場で非常に活発な議論が行われており、非常に貴重な意見をいただいております。室長から合併20年を目指して発刊が始まるとありましたが、その内容の充実には、いろいろ課題もあると思っています。

基本的にはこれまで市町村史が、もしくは県誌が編さんされた場合に、1冊2,000ページなどのパターンが多いですが、編さん委員の意見が合致し、読みやすく市民が気楽に興味を抱いて手に取って見られるような冊子作りを前提として、各巻の編集を行っているところであります。

その中で、我々結構地域のことで知らないこと、これまで漏れてきたことが結構あるのではないかという意見が出ており、我々が住んでいるこの地域で新たな宝探しをしてみたらどうだろうか、うちにはこんなものがあるよ、ここではこんな祭りがまだ行われている、こういう会合があり珍しいなど、今まで声になっていなかったものを拾い集めてそれを採集して、この市誌に乗せていくことを考えています。

これが先ほど言いました伊那市を概観するということに繋がるし、これからの伊那市を考えることにも繋がっていくものです。まだ緒に就いたばかりですけれどもこれから鋭意、公民館単位ではそれぞれの人たちからリサーチして、やっていこうと考えております。

その中で、特に重要なのがこのまま埋もれてしまう資料も結構あるのではないか、その資料がどれだけ、どんな場所に、どんな形であるのか確認作業を行い、目録を作り、ひいてはデジタル化や保存にも心がけていく、いわば資料編のところについて、形態としてどういう形をとっていくか難しいところもありますが、その資料を保存していくということをこの編さん委員会も心がける必要があると考えています。そんなことを考えますと、とてもその13名の編さん委員だけでできるような作業ではありませんので、できるだけ市民1人1人を巻き込んだ形で、この市誌編さん事業をやっていきたいと思っています。

例えば、市長が12月号伊那路の巻頭に長衛小屋の歴史という論文を書いています。合併後、この20年の間に新たに発掘されてきたものをきちんと論文化し、もしくはデジタル化したものが資料としてあり、そういうものをきちんとこの中に入れて、収集、保存を図っていく、これも任務の1つだと考えています。今の段階について説明させていただきました。

市長

ありがとうございました。市誌で20冊は大変な量であると思いますが、その辺はどうですか。

春日委員長

1冊を大体200ページから250ページと考えています、この見本は上田市誌です。上田市誌は古代からいろいろな分野を編さんしています。我々の場合は、近現代で特徴的なところをできるだけ掘んでいこうと思っています。上田市誌とはそういうところで、内容は異なります。200から250ページぐらいが手に取って読みやすい形ということで、20冊ぐらいになってしまうと思います。

市長

ご質問どうですか。

教育委員

委員の皆さん、とても大変だと思いますが期待しています。冊子として整える他に、絶対デジタル化しなければいけない世の中になっていると思います。デジタル化するとページ数の制限もないですし、PDFなどいろいろな形式があり、永久に保存されます。大事と思うのはどんどんWeb上に掲載していくことです。

目的として、伊那に対する愛着ということで中高生にも分かり易くということですが、これまでの場合は伊那市内の図書館等に置き、閲覧するスタイルだと思いますが、伊那市の歴史とかに関心を持っているのは伊那市民だけではなくありません。伊那出身で例えば東京やニューヨークにいる方など、故郷の説明をしたいが全然知らないから調べたくなる時があります。その時に伊那市の図書館のホームページがあり、全ページ検索したら知りたい情報が出てくる、地質だとか歴史だとか、道のこと、そういう時代になっています。もこれまでの高遠や長谷、旧伊那市のこれまでものもデジタル化していただきたいと思います。

また、伊那市のホームページに検索窓口を作っておけば、どういう項目を調べる人が多いのかデータも取れます。そうなれば、そこをさらに充実していく、学校にもタブレットが配られており、デジタルを絶対していただきたいと思います。それはコストの面でも、ベストだと思います。

市長

全部を市誌に入れるのではなく、冊子としては20冊、その裏側にデジタル化もあるし、既にデジタル化されている資料もあります。そういうものが閲覧できるようになると面白いと思います。例えば亡くなった矢沢さんのお願いしていた明治大正初期にかけての写真のデジタル化されたものが2万点ぐらいあります。古文書もデジタル化しています。そういうものも見る事が出来ると研究者にとっても面白いです。20冊つくるのは大変な作業で、13人から増えて市民参加でやっていくとのことですが、大変だと思います。

春日委員長

部会を鋭意開いていますが、各部会の項目化の進捗状況がよくなっています。我々の見通しとしては、スケジュール表もありますが、あと1年ぐらいを項目化の洗い出しに当てて、その項目化の洗い出しをきちんとすることが冊子を作る上で非常に重要なテーマとなっています。何をどう扱うかが決まれば、執筆に入っていくスケジュールです。13名の方々それぞれ各フィールドでいろんな仕事をやってきているアスリートたちですので、やっていただけたと思っています。

市長

他に何かご意見ありますか。

教育委員

非常に期待しています。子どもたちが伊那市駅前を検索すると、写真が流れてきて、変わってきたことが分かる、文章でわかることが良いです。検索する者に対して提供して深掘りできるのが体系化されることが素晴らしいです。

根本的な考え方ですが、去年を振り返って市誌に書くならこの記事っていうのを毎年やっておく、まとめて振り返るのでなく、今年で市誌に入れるものを集めて、体系づけして、歴史の中に残す必要があるか検討する人たちがいて整理しておく、その情報提供はメールや電子データで貰っておけば、50年後に50年前を振り返って作業をする必要性はなくなる、半年に1回、1年に2回ぐらいの作業で、その年を切り取っていく作業をやっていくことが今後生きてくると思います。

市長

面白いと思います。50年いっぱい過去を振り返ってというより、現在の上に積み重ねていった方が良いです。このことを見たときに新型コロナはとんでもない出来事として乗ってくると思いますが、一方で社会にあるINAスーパーエコポリス、確かに今の段階では、最先端だが20年後には子どもたちでも出来ますとなっているかも知れません。このことを残すかどうか。そういう意見もありますので、今のご意見も参考にいただければと思います。他どうですか。

教育長職務代理者

2つお願いします。1つは概要の中でコラムいいなと思いました。学問的内容で正確を期して書いていくと思いますが、最初の概説を読んだときに、魅力的だな、伊那市ってすごいな、読みたいな、そういう部分が入ってことがとてもいいなと思います。

2つ目は先ほどの分冊です。十分検討された後だと思いますが、例えば、概説編2冊で400ページはかなり厚くなると思います。自然編だったら、タイトルの後ろに記載すると思いますが自然編1、2、3、みたいになると思うので、8分冊くらいの方が良いと思います。

市誌編さん室長

項目を検討する中で、只今のご意見も出ています。大体200ページ250ページですと、「私達のふるさと」という冊子より、若干厚くなる。あとサイズはA4で進めておりますので、私達の故郷よりもちょっと大きくなる。やはり手に取ってみたとき持ちやすさ、見やすさのこともある。2冊合わせて400ページならそのままでいいのではとの意見もあります。もう少し検討させていただいて、詰めていければ思っています。

市長

他はよろしいですか。委員さん、作業も増えたり、執筆する時間も必要になったりしますが、50年、70年に一度の作業です。予算について、必要なものは出していただきたい。大変な作業ですがよろしくお願いします。ありがとうございました。

5 閉会

教育次長

ありがとうございました。全体通してなければ、閉じたいと思います。本日はどうもありがとうございました。